

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
 ⑪ 公開特許公報 (A) 昭59—202691

⑫ Int. Cl. ³ H 05 K 5/02 G 11 B 1/00 H 04 N 5/64	識別記号 7216—5F 7177—5D 7013—5C	厅内整理番号 7216—5F 7177—5D 7013—5C	⑬ 公開 昭和59年(1984)11月16日 発明の数 1 審査請求 未請求
--	---------------------------------------	---	--

(全 3 頁)

⑭ 篮体装置

⑮ 特 願 昭58—77026
 ⑯ 出 願 昭58(1983)4月30日
 ⑰ 発明者 松岡勇一
 門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内
 ⑱ 発明者 香川享史

門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内
 ⑲ 発明者 小笠原修
 門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内
 ⑳ 出願人 松下電器産業株式会社
 門真市大字門真1006番地
 ㉑ 代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

明細書

1、発明の名称

籠体装置

2、特許請求の範囲

樹脂成型された籠体内に枠体を嵌合し、籠体内の前面部に複数の十字リブと、籠体底面と両側面内壁にそれぞれ上記枠体の外面と当接する複数のリブを籠体の前端から後端に向けて一体に形成し、枠体の上記十字リブと相対向する位置に一方は十字リブと嵌合する丸孔を、他方は横方向に裕度を備えた長孔を設け、バックカバーの両側面内壁に上記枠体の外面と当接する複数のリブを背面から開口端に向けて一体に形成し、バックカバーの底面から背面にかかる内壁に上記枠体の外面と当接する側面コ字状の複数のリブを一体に形成し、籠体にバックカバーを固定することにより枠体を上記リブ群で挟持し、所定の位置に固定するようした籠体装置。

3、発明の詳細を説明

産業上の利用分野

本発明は、通常の製法で樹脂成型された籠体にテレビジョン受像機とビデオテープレコーダーを一体に収納するなど複合機器として必要な強度を満足し、メカニカルシャーン等を収納した枠体を籠体内に嵌合して籠体とバックカバーの固着により枠体を所定の位置に固定出来るようにした籠体装置に関するものである。

従来例の構成とその問題点

従来は、テレビジョン受像機とビデオテープレコーダーはそれぞれ別籠体に収納されるか、又は一体に収納される場合は一般にコンソール型で木質の強固な籠体に収納されており、樹脂成型された籠体にテレビジョンとビデオテープレコーダーを一体に収納する場合、籠体強度に問題があり、又コンパクトで作業性にすぐれたものはなかった。

発明の目的

本発明は、簡単な構成で通常の樹脂成型された籠体に複数の補強リブを設け、テレビジョンとビデオテープレコーダーを一体に収納して充分な強度を備えると同時に、メカニカルシャーン等を枠体

特開昭59-202691(2)

ア群により枠体が筐体内の所定の位置に固定出来るようとしている。

実施例の説明

以下、本発明の一実施例を図面を参照して説明する。第1図は本発明を実施した一例のテレビジョンAとビデオテープレコーダBを樹脂成型された筐体Cに一体に収納したいわゆる複合機器の合体斜視図である。第2図に示すようにビデオテープレコーダのメカニカルシャーシや、回路基板等を効率よくコンパクトに枠体1内に収載し上記開口部をシールド板とて覆い、枠体1の両側部にZ字状のレール3, 3'を対向して固定し、レール3, 3'の薄で回路基板4を挟持する。

第3図に示すように樹脂成型された筐体5の内壁前面部に複数の十字リブ6と、筐体底面と両側面内壁にそれぞれ枠体1の外面と当接する複数のリブ7, 7'を筐体の前端から後端に向けて一体に形成し、枠体1に十字リブ6と相対向する位置に一方は十字リブ6と嵌合する丸孔8を、他方に上下方向は丸孔と同口径で横方向に隔壁を備えた長孔を設けてそれぞれ十字リブと嵌合させ、バックカバーの両側面内壁に枠体の外面と当接する複数のリブを背面から開口部に向けて一体に形成し、更にバックカバーの底面から背面にかかる内壁に枠体の外面と当接する側面視コ字状の複数のリブを一体に形成し、筐体内に枠体を嵌合し、筐体とバックカバーを固定することにより上記十字リブ他多くのリ

長孔8を設け、枠体1を筐体5内に嵌合する時前端部で上記十字リブ6と孔8, 8'で上下左右方向の動き規制して位置決めする。バックカバー10の両側面内壁に枠体1の外面と当接する複数のリブ11, 11'を背面部から開口端にかけて設け、更にバックカバー10の底面から背面にかかる内壁に枠体1の外かくと当接する側面視コ字状の複数のリブ12を設け、筐体5に枠体1を後端開口部より挿入すると前端部が十字リブと枠体に設けられた丸孔、長孔と嵌合して上下及び横方向の動きを規制して位置決めされ、筐体5とバックカバー10を固定すると、枠体1はリブ11, 11', 12に規制され、筐体内の所定の位置に固定されるもので、本発明では筐体を組立てることにより、格別に枠体を取付固定する手段を構じなくとも筐体内の所定の位置に固定することができる。

発明の考案

本発明によれば、通常の樹脂成型された筐体に複数の補強リブを設けることにより、テレビジョンとビデオテープレコーダを一体に収納して充分

な筐体の強度を得ると同時に、ビデオテープレコーダのメカニカルシャーシ回路基板を効率よく収納する枠体を設け、筐体とバックカバーの固着により特別な取付固定手段を構ずることなく枠体を筐体内の所定の位置に固定することのできるコンパクトで極めて組立作業性にすぐれた筐体を得ることができる。

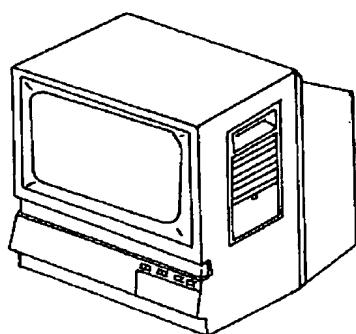
4、図面の簡単な説明

第1図は本発明の筐体装置を実施することのできる複合機器の全体斜視図、第2図は本発明の一実施例における筐体装置に用いられる枠体の斜視図、第3図A, Bは同組立状態断側面図およびBは断平面図である。

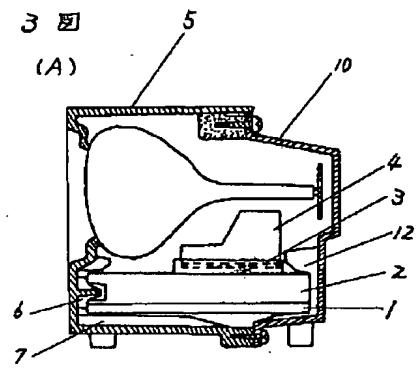
1 ……枠体、5 ……筐体、6 ……十字リブ、7, 7' ……補強リブ、8, 8' ……嵌合孔、10 ……バックカバー、11, 12 ……補強リブ。

代理人の氏名 弁理士 中尾敏男 担当者1名

第1図



第3図



第2図

